

はじめに

本書は、柏屋町大字阿恵字茶屋及び大字内橋字茶屋に所在する阿恵茶屋遺跡について、平成29年度と平成30年度に国庫補助金及び県費補助金を受けて実施した国庫補助事業町内遺跡試掘・確認調査の成果を記録したものです。

阿恵茶屋遺跡は、槽屋評衛・郡衛である国史跡阿恵官衛遺跡に近接した場所で発見されました。阿恵官衛遺跡では、官衛の中心となる政庁と正倉のほかに、古代道路が見つかっており、この道路と、都と大宰府を結ぶ駅路が交差する場所に、阿恵茶屋遺跡が立地している状況です。また、駅路を北上したところに夷守駅家と考えられる内橋坪見遺跡や博多湾の港湾施設として奈良時代から平安時代にかけて栄えた多々良込田遺跡も発見されており、阿恵茶屋遺跡の周辺は、海上・河川交通と陸上交通が官衛を中心に張り巡らされた重要な地域であつたことがわかつてまいりました。

本書が郷土の歴史に誇りを持ち、文化財に対する理解を深める上で広く活用されるとともに、研究資料としても貢献できれば幸いです。

最後になりましたが、調査に御協力いただきました地権者の方々をはじめ、近隣住民の皆様に心から謝意を表します。

令和2年3月31日
柏屋町教育委員会
教育長 西村 久朝

発行	柏屋町教育委員会
調査起因	国庫補助事業町内遺跡試掘・確認調査
現地調査	【平成29年度】 平成29年7月11日、平成29年7月31日～平成29年8月22日、 平成29年12月13日
	【平成30年度】 平成30年5月14日～平成30年5月26日、平成30年10月30日
整理調査	平成31年4月1日～令和2年3月31日
使用方位	座標北(国土地理院第II系「世界測地系」)。真北に対して0°17'西偏。
遺構実測	西垣彰博、高崎幸作、側原泰介、常盤拓生
遺物実測	西垣彰博、常盤拓生
製図／遺構撮影	西垣彰博、高崎幸作
遺物撮影／執筆／編集	西垣彰博
資料整理	松永メイ子、毛利須寿代、上田津由美、常盤拓生、水上良行、山下真美

本書に関わる遺物・記録類は、柏屋町立歴史資料館にて収蔵・管理し、公開する予定である。

目次 阿恵茶屋遺跡

01 経過・位置と環境	07 B 地点の調査
01 調査に至る経過	09 C 地点の調査
01 調査体制	09 D 地点の調査
02 地理的環境	10 総括
02 歴史的環境	
04 調査成果	11 図版
05 A 地点の調査	

同時代の周辺の調査遺跡

阿恵官道遺跡	『阿恵遺跡』柏原町教育委員会 2018
(阿恵遺跡)	
阿恵原口遺跡	『阿恵原口遺跡』柏原町教育委員会 2004
	『阿恵原口遺跡第2地点』柏原町教育委員会 2010
阿恵古屋敷遺跡	『阿恵古屋敷遺跡』柏原町教育委員会 1995
阿恵天神森遺跡	『阿恵天神森遺跡』柏原町教育委員会 1996
	『阿恵天神森遺跡第2地点』柏原町教育委員会 2016
内橋坪見遺跡	『内橋坪見遺跡概要報告書』柏原町教育委員会 2013
	『内橋坪見遺跡第3次』柏原町教育委員会 2015
	『内橋坪見遺跡第1次・2次』柏原町教育委員会 2019
内橋牛切遺跡	『内橋牛切遺跡』柏原町教育委員会 2013
内橋登り上り遺跡	『内橋登り上り遺跡』柏原町教育委員会 1994
	『内橋登り上り遺跡第2地点』柏原町教育委員会 1997
	『内橋登り上り遺跡第3地点』柏原町教育委員会 1997
	『内橋登り上り遺跡第4地点』柏原町教育委員会 2001
内橋銛道跡	『内橋銛道跡』柏原町教育委員会 2015
内橋カラヤ遺跡	『内橋銛道跡2次調査・内橋カラヤ遺跡』柏原町教育委員会 2017
	『内橋カラヤ遺跡第2地点・内橋カラヤ遺跡第3地点・内橋銛道跡3次』柏原町教育委員会 2020
戸原御堂の原遺跡	『戸原御堂の原遺跡』柏原町教育委員会 2000
戸原寺田遺跡	『戸原寺田遺跡』柏原町教育委員会 2017
原町平原遺跡	『原町平原遺跡』柏原町教育委員会 2019

経過・位置と環境

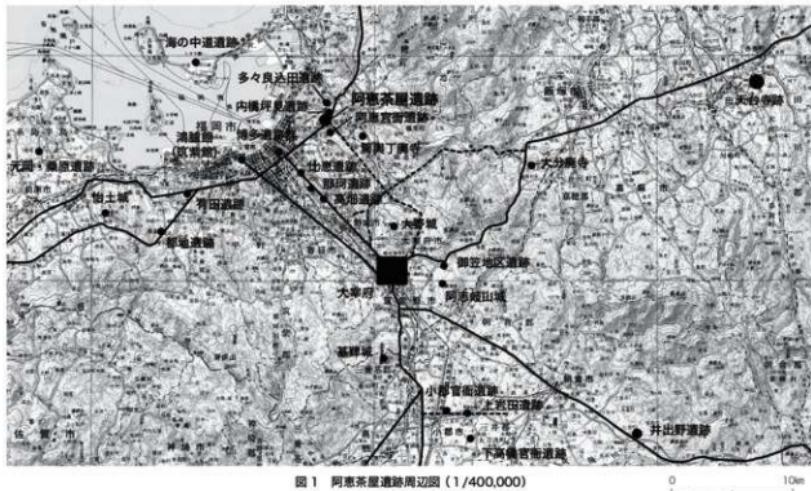


図1 阿恵茶屋道跡周辺図 (1/400,000)

0 10km

調査に至る経過

本報告は、平成29年度と30年度に実施した確認調査のうち、古代道路に関わる4件分を報告するもので、調査はそれぞれ異なる建築計画等に起因する。調査順にA地点～D地点として報告する。

これらの一連の確認調査によつて、大宰府と都を結ぶ駅路の検出に至ったため、その重要性を鑑みて、国庫および県費の補助金を活用して発掘調査報告書を刊行し、調査成果を広く公開するため、出土遺物整理作業を実施した。実施期間は、平成31年4月1日から令和2年3月31日である。

出土遺物および図面・写真等の記録類は柏屋町立歴史資料館にて

保管している。

なお、調査期間中は、長崎外国语大学木本雅康教授（故人）、筑紫野市教育委員会小鹿野亮氏、福岡市文化財部音波正人氏より貴重なご意見・ご指導をいただいた。

また、地域住民の方々をはじめ、地権者及び関係者の皆様には、調査の趣旨にご理解を得るとともに、多大なご協力を賜りました。ここに記して感謝申し上げます。

社会教育課長 新宅 信久

同課文化財係主幹 西垣 彰博

同課同係主事 高橋 幸作

同課同係嘱託職員 福島日出海、朝原泰介、毛利須代

令和元年度

調査主体 柏屋町教育委員会

教育長 西村久朝

社会教育課長 新宅信久

同課文化財係主幹 西垣彰博

同課同係主事 高橋幸作

同課同係嘱託職員 福島日出海、朝原泰介

調査体制

平成29年度・30年度

調査主体 柏屋町教育委員会

教育長 西村 久朝

教育委員会事務局次長 大石 進

調査作業員(50音順)

上田津由美、常盤拓生、前田勝彦、水上良行、山下真美

地理的環境

福岡県糟屋郡粕屋町は、福岡市の東に隣接し、粕屋平野の中央に位置している。町域は 14.13km²と狭く、大半が平坦な地勢である。

柏原平野の西は博多湾に面し、南側は四王寺丘陵部によって福岡平野と区分される。東側の三郡山地を源とする3本の河川が平野を貫流し、北から多々良川、須恵川、宇美川の順で博多湾へ注いでいる。平野の北側には立花丘陵部があり、博多湾に面して周りを山地で囲まれた小さな平野である。東の三郡山地から舌状に派生する低丘陵が多く、平坦な地勢の割に沖積地は河川流域に限られている。

阿恵茶屋遺跡が位置する博多湾沿岸は、多々良川・須恵川・宇美川が河口付近で合流し、古代においては入江状の内海を形成していた。遺跡は、当時の推定海岸線から須恵川を約2km遡上した微高地に立地する。

歷史的環境

本遺跡は、以前より、大宰府と都を結ぶ駅路が通過する地点として想定されていた⁽¹⁾。そして、南約300mに位置する阿恵官衙遺跡の調査で、伝路とみられる古代道路が確認されたことにより、本遺跡が駅路と伝路の交差する箇に該当する可能性が高まった。

阿惠官衙遺跡は、7世紀後半から8世紀後半にかけて、政府と正倉という地方官衙の主要施設の全貌像を捉えながら、評価の出現から都衙の最盛期に至る地方官衙の変遷を追うことができる国内でも稀な遺跡であり、国史跡に指定されている。

また、本遺跡を駅路沿いに北上すると夷守駅家と推定される内橋平見遺跡がある。大宰府式鬼瓦、赤色顔料が付着した隅切軒平瓦など多量の瓦が出土し、大型の建物群のほか、築地塀等の囲繞施設をともなっている。駅路を挟んだ内

橋牛切遺跡の井戸からは、駅家の饗宴で使用するために、貴賓用に製作されたとみられる優品の土師器類も出土している。

内橋坪見遺跡から北西方向の多々良川沿いの低地に多々良込田遺跡がある。掘立柱建物群と多くの船載品や、役人の存在を示す石帶などが出土し、港湾施設と推定されている。

この多々良込田遺跡から博多湾に出ると、大宰府の主厨司管下である津厨に比定される海の中道遺跡がある。

阿恵茶屋遺跡が位置する博多湾東岸は、官衙を中心として古代道路を張り巡らせ、陸上交通、河川交通、海上交通が結節する地域である。

- (1) 日野尚志「筑前国那珂・席田・
柏屋・御笠四郡における条里に
ついて」『佐賀大学教育学部研究
論集』第24集 1976

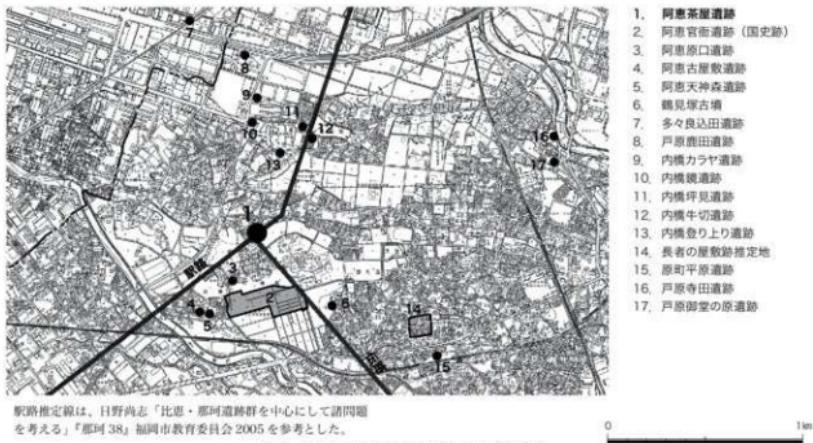


図2 阿恵茶屋道跡周辺の遺跡分布図 (1/25,000)

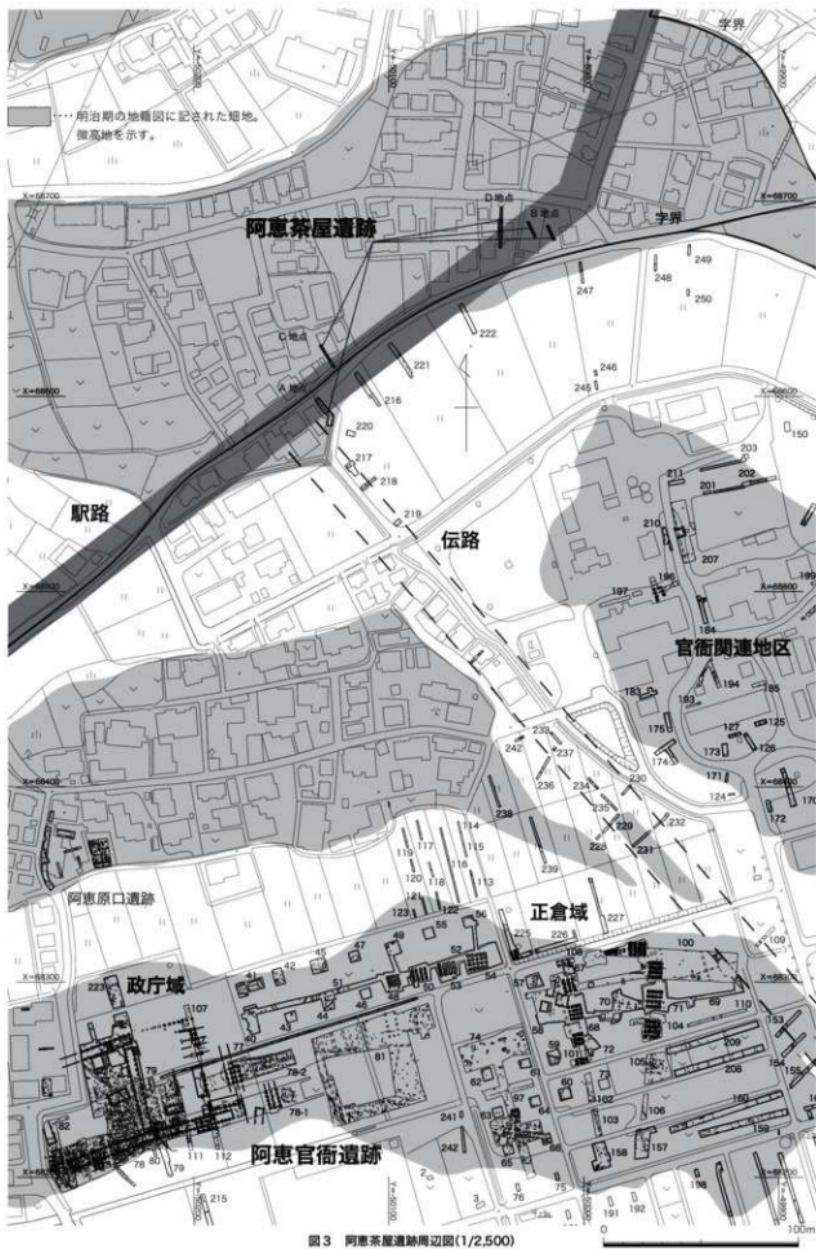


図3 阿恵茶屋遺跡周辺図(1/2,500)

調査成果

調査地は、以前から駅路が通過することが推定されており、まさにその場所で、駅路の路面幅を示す路肩と側溝を検出するに至った。約21mという突出して広い路面幅であるが、直交する伝路も同じ規模であり、櫛屋郡衙の前面という位置関係も考慮する必要がある。

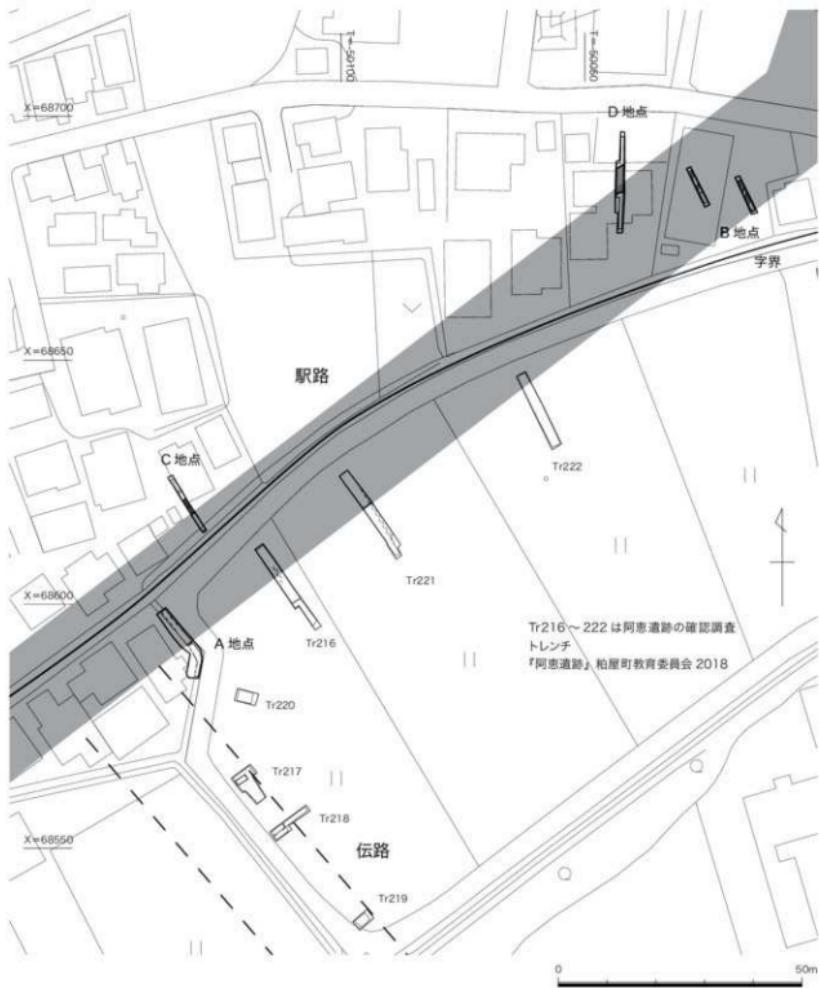


図4 阿恵茶屋遺跡平面図(1/1,000)

A 地点の調査(図6)

柏屋町大字阿恵字茶屋 73-7、73-8における専用住宅の建築にともない、掘削が遺構面に達する擁壁部分のみを工事立会とした確認調査で、調査期間は平成29年7月11日、7月31日～8月22

日である。

調査前の現況地形は、北西の駅路側から南東の伝路側へ向けてスロープ状に緩やかに傾斜していた。そのことから、微高地の上を通る駅路と低地を通る伝路の高低差(約2m)を接続するために、積土を施してスロープ状の地形を造成したもののではないかと想定

していた。

しかしながら、確認調査を実施したところ、スロープ状の地形は積土によるものであるものの、古代道路の時期ではなく、古代道路廃絶後の整備であることが判明した。出土遺物からみて12世紀後半以降とみられる。

駅路整備にともなうものとして

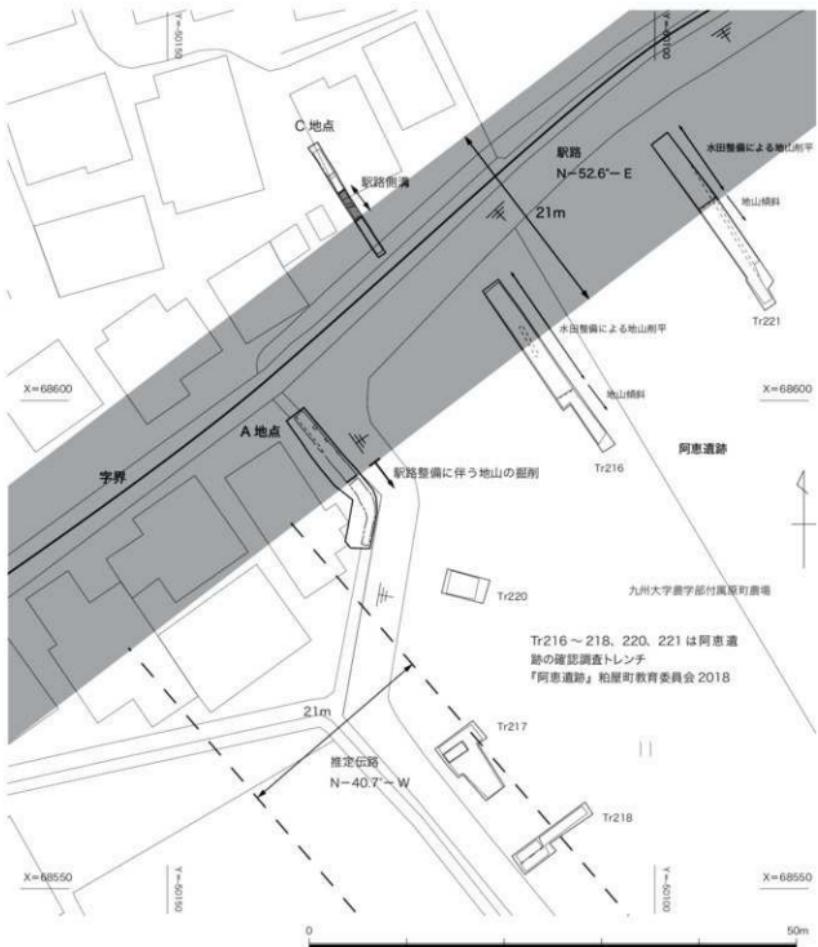


図5 阿恵茶屋遺跡 A地点、C地点平面図(1/500)

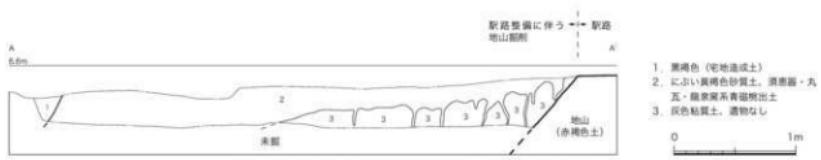
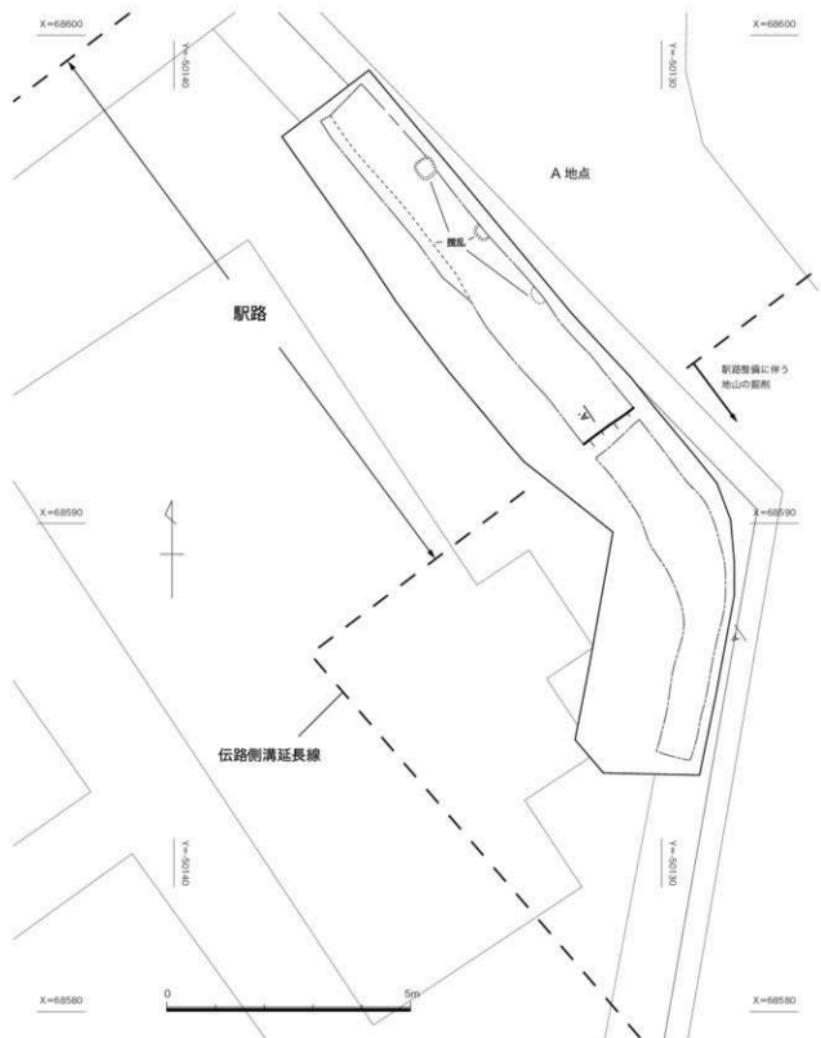


図6 阿恵茶屋遺跡 A 地点平面図 (1/100)、土層断面図 (1/40)



図7 A地点積土出土遺物実測図(1/4)

は、調査トレーナー中央付近で人為的に地山を深く掘り込む状況を検出した。微高地の端を削り落として道路を形成したものとみられ、道路の端を示すと考えられる。掘り込みの方針はN=53.8°-Eで、駅路の方針N=52.6°-Eとほぼ同じである。路面には、硬化した状況や波板状凹凸面などは認められなかった。

土層断面図(図6)の2層と3層はともに掘り込みを埋めた上であり、駅路廃絶後の積土である。2層と3層の層理面は水平ではなく南東に傾斜しているので、3層の灰色粘土は水田利用の痕跡ではない。3層から遺物が全く出土しないため、生活面の土を搬入したものではないことがわかる。色味・質感が水田土壤に似ていることから、周辺の水田の土を積上として搬入した可能性を考えられる。

また、3層を平面的に精査したところ、上層の2層が網目状に貫入していることが確認できた。土層断面においても2層が3層の中に貫入している状況がわかる。これは、含水量が多い軟質な粘土である3層の上に砂質土の2層を積んだことにより、2層が3層内部に入り込んだものではないかと推測する。2層は積土による造成後の最終的な地表面であり、古い

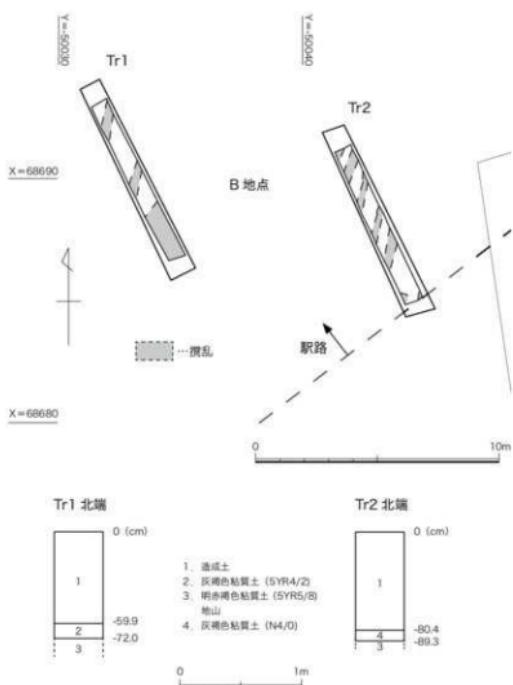


図8 阿恵茶屋遺跡B地点平面図(1/200)、土層断面模式図(1/40)

地籍図に記された畠地の範囲(図3)に一致する。駅路廃絶後は、積土で造成した土地を含めて駅路も畠地に転用された可能性を考えておきたい。

A地点出土遺物(図7)

すべて積土(2層)出土である。1は須恵器の甕の頸部。内外面ともヨコナデ。2は龍泉窯系青磁碗の口縁部で輪花を有する。内面に二又片刀による分割線と、片刀による花文を施す。12世紀後半。3は古代の丸瓦。

B地点の調査(図8)

柏屋町大字内橋字茶屋367-3における共同住宅の建築とともに、平成29年12月13日に実施した確認調査である。

調査トレーナーを2本設定したが、いずれも明赤褐色～橙色の地山が確認できただけで、遺構・遺物は検出できなかった。調査時は、駅路に含まれる場所という確証がなかった段階であり、これ以上の調査は行わず、慎重工事として対処している。

その後のC地点、D地点の調査成果によって、駅路の路面で

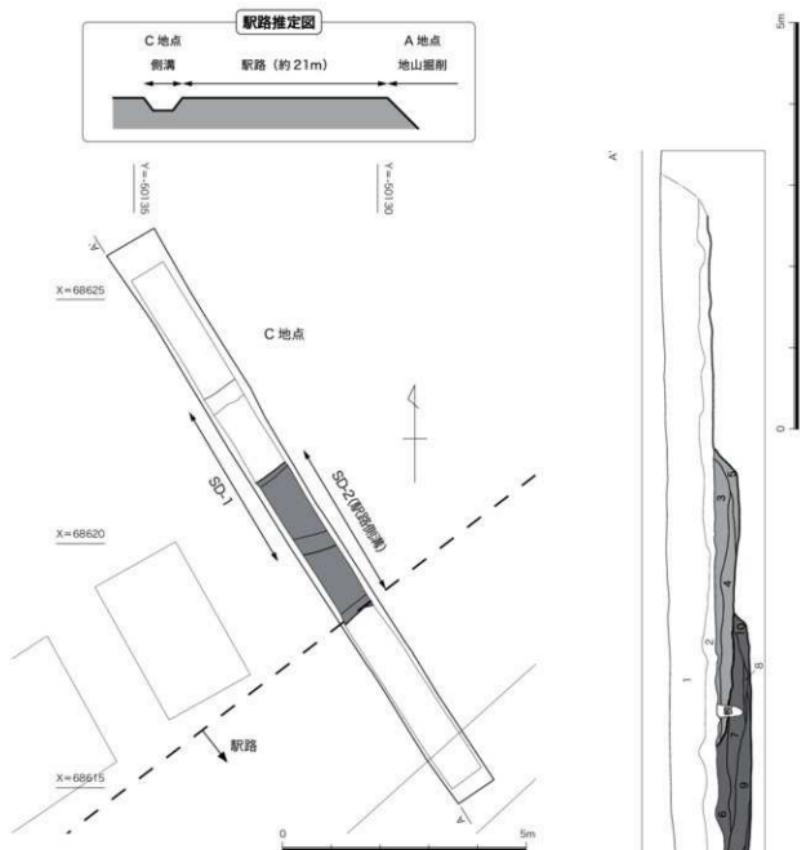


図9 阿恵茶屋連絡C地点平面図(1/100)

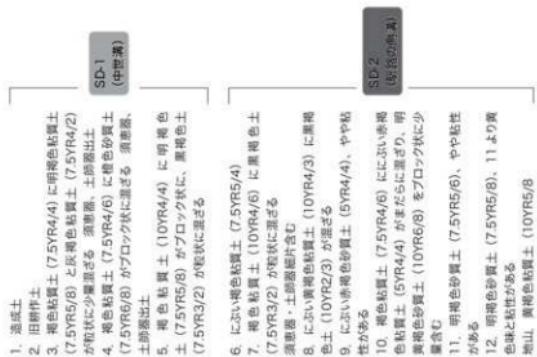


図10 阿恵茶屋連絡C地点トレンチ土壌断面図(1/60)

A
8.2m

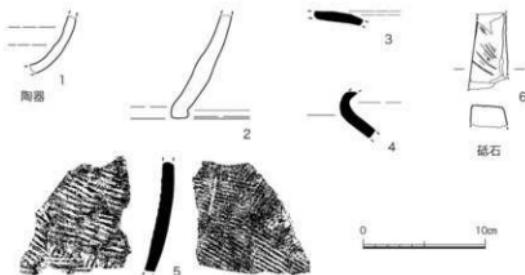


図11 C地点 SD-1出土遺物実測図(1/4)

あつたことが判明した。B地点の2本のトレンチいずれにおいても地山面しか検出しなかったことは、この範囲に駅路側溝が存在しないことを示している。つまり、駅路の路面幅が21mより狭くならないことを証明するものであり、極めて重要な意味をもつ。

C地点の調査

駅路側溝と中世溝(図9、10)

柏屋町大字内橋字茶屋375-3における専用住宅の建築とともに、平成30年5月14日～26日に実施した確認調査である。

調査トレンチ中央で駅路に平行する溝を検出した。2条の溝が重複しており、SD-2が埋没した後にSD-1が掘り直されている。SD-1は幅3.9m、基底部幅3.2m、深さ0.32mで、SD-2は幅3.3m、基底部幅3.0m、深さ0.43m、断面は逆台形である。溝の上部は削平を受けているため、本来の規模と異なる可能性もある。

SD-1は出土遺物から中世以前とみられる。SD-2は須恵器

と土器の細片しかなく図示しない。SD-2は、中世溝のSD-1に切られることから、古代に遡ることが推測される程度である。ただし、SD-2は、A地点で検出した駅路のラインと平行すること(図5)、この場所が字界であること、SD-2とA地点の路肩との幅が約21mになり、直交する伝路と同じ路面幅になることから、最初に掘削されたSD-2が駅路側溝であると判断する。

駅路が廃絶して側溝が埋没した後(図10の断面図中の砂が混じる8～12層は、周囲の路面等からの流れ込みによる堆積)、中世にSD-1を掘り直しているのは、A地点で積土を造成した土地利用と何らかの関連も考えられるだろうか。

駅路側溝(SD-2)南側(駅路の路面部分)の断面図に凹凸があらわれているが、これは現代の造成行為による重機の痕跡であり、波板状凹凸面等の古代道路の痕跡ではない。硬化面等の道路状造構も認められない。

なお、駅路の側溝は掘削が及ばない範囲であるため、慎重工事で対処している。

SD-1出土遺物(図11)

C地点では、駅路側溝(SD-2)の出土遺物はないため、中世溝(SD-1)の出土遺物のみ報告する。

1は無釉の陶器で、胎土はぶい赤褐色で、外面のみ暗灰色を呈する。胎土に白色粒を多く含む。内外面とも回転ナデ。2は土師質で、胎土は灰黄褐色、外面は黒斑部分に当たるのか黒色である。底を持たない器形の底部と推定するが器種不明。端部は平坦で、外方に拡張する。底部付近の器壁は体部よりも厚くなる。3は須恵器杯蓋の天井部。回転ヘラケツリを施す。4は須恵器壺の口縁部。5は須恵器壺の体部。外面は平行タタキで、内面は平行當て具痕。6は砂岩製の砥石。一面は剥離している。幅3.0cm。

D地点の調査(図12)

柏屋町大字内橋字茶屋368-1における専用住宅の建築とともに、平成30年10月30日に実施した確認調査である。

調査トレンチの中央で溝を検出した。この溝は、A地点とC地点の調査で明らかになった駅路の延長線上に位置し、溝の方位も同じであることから、駅路の側溝と判断できる。溝の幅は約5mであり、C地点のSD-1とSD-2を合わせた幅とほぼ同じである。おそらく、D地点も駅路側溝と中世溝が重複している可能性が高い。

建築行為による掘削が遺構面まで及ばないため、慎重工事で対処している。

総括

調査地付近は、調査以前より、歴史地理学の研究によって、推定駅路の通過地点として知られていた⁽¹⁾。また、推定駅路沿いに北へ900mの地点に位置する内橋坪見遺跡で発掘調査がおこなわれ⁽²⁾、夷守駅家の所在地である可能性が高くなつたことにより、経路の正当性が補強された。さらに、阿恵遺跡の調査において、推定駅路に直交する伝路の存在が想定され⁽³⁾、調査地付近は古代道路が交差する衝である可能性が高い。このように、調査地付近では古代道路に関する調査成果が蓄積されつつある。

今回の調査で、駅路の側溝を検出し、路面幅を確認することができた。水城東門ルートを除けば、大宰府→門司間で駅路の遺構が確認できたのは初めてのことである。

A 地点で検出した地山の切土は、明らかに人工的な開削である。これを埋めた積土が中世以降であることから、この開削は古代に遡る可能性が高い。開削の斜面の方位が推定駅路と同じであること、阿恵遺跡の調査で確認した伝路と直交することから、駅路の路肩と判断できる。旧地形が南へ傾斜しているため、側溝ではなく地山を削って路肩としたものであろう。

隣接する阿恵遺跡のトレント216、222では、後世の水田利用により、地山が著しくけずられているのを確認している(図5)。本来は A 地点のように地山を開削した路肩が続いているはずであるが、その地山ごと消失している。

そして、C 地点で駅路側溝を検出したことで、路面幅が約 21 m であることが判明した。さらに、

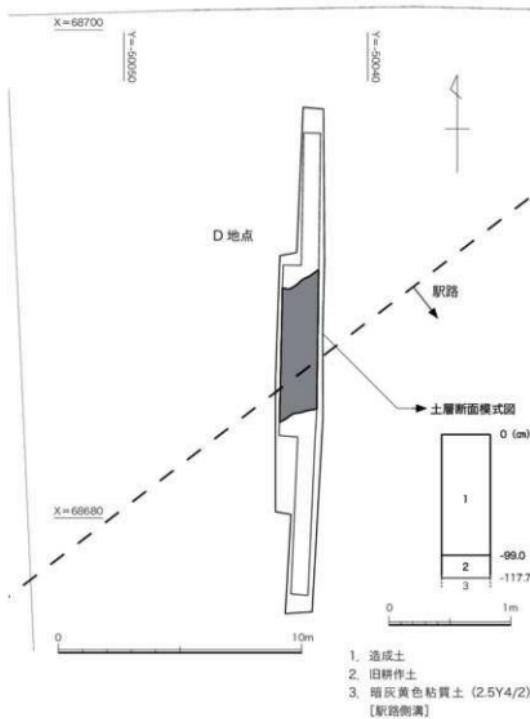


図 12 阿恵茶屋遺跡 D 地点平面図 (1/200)、断面模式図 (1/40)

D 地点でも駅路側溝を検出し、B 地点では路面となる地山しか確認できなかつたことから(つまり 21 m 内に駅路側溝は存在しない)、路面幅は約 21 m より狭くならないことが確定した。

これは、直交する伝路と同じ路面幅であるが、大宰府の朱雀大路が約 35.8 m 幅⁽⁴⁾、平野部の駅路がおよそ 12 m 幅とされることを考えると突出した規模である。ただし、本調査地は槽屋郡衙である阿恵官衙遺跡の前面に位置し、これと同じ立地環境である福岡市有田遺跡(早良郡)でも、官衙の前面に同規模の古代道路が確認

されている⁽⁵⁾。官衙と古代道路の関係を再検討する必要があろう。

- (1) 日野尚志「筑前国那珂・席田・柏屋・御笠 4 郡における条里について」『佐賀大学教育学部研究論文集』第 24 集 1976
- (2) 「内橋坪見遺跡 1 次・2 次」柏屋町教育委員会 2019
『内橋坪見遺跡 3 次』柏屋町教育委員会 2015
- (3) 「阿恵遺跡」柏屋町教育委員会 2018
- (4) 井上信正「大宰府条坊論」「大宰府の研究」大宰府史跡発掘五〇周年記念論文集刊行会 2018
- (5) 有田・小田部 58「福岡市教育委員会 2018



阿惣茶屋遺跡 A 地点 軌道路面検出状況(南東から)



阿惣茶屋遺跡 A 地点 軌道路面検出状況(南東から)



阿惣茶屋遺跡 A 地点 構土土層断面(北東から)



阿恵茶屋道路 B 地点 駅路路面検出状況（北西から）



阿恵茶屋道路 B 地点 駅路路面検出状況（北西から）



阿恵茶屋道路 C 地点 駅路掘溝・中間溝検出状況（南から）



阿恵茶屋道路 C 地点 駅路側溝完掘状況（南から）手前の平坦面が頭面



報告書抄録

ふりがな	あえちゃんやいせき							
書名	阿恵茶屋遺跡							
シリーズ名	柏屋町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第50集							
編著者名	西垣彰博							
編集機関	柏屋町教育委員会							
所在地	〒811-2314 福岡県糟屋郡柏屋町若宮一丁目1番1号							
発行年月日	2020年3月31日							
所取遺跡名	所在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
阿恵茶屋遺跡	福岡県糟屋郡柏屋町 大字阿恵字茶屋73番7、 73番8、大字内崎字茶 屋367番3、368番1、 375番3	403491	280242	33°37'02"	130°27'34"	2017.7.11、 2017.7.31～ 8.22、 2017.12.13、 2018.5.14～ 5.26、 2018.10.30	約67m ²	確認調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
阿恵茶屋遺跡	古代道路	奈良時代、中世	講（駅路の側溝）	土師器、須恵器、輸入陶磁器、駅路の側溝を検出。 瓦、石器				
要約	駅路の側溝と地山掘削による路肩を確認し、駅路の路盤幅が約21mであることが判明した。これは、隣接する阿恵道路の調査で検出した伝路の路面幅と同じである。この駅路と伝路の間に精層評価、都御である阿恵官道遺跡が立地する。							

阿恵茶屋遺跡 柏屋町文化財調査報告書第50集

令和2年3月31日 発行

発行 柏屋町教育委員会

〒811-2314 福岡県糟屋郡柏屋町若宮一丁目1番1号（柏屋町立歴史資料館）

印刷・製本 株式会社三光

〒812-0015 福岡県福岡市博多区山王一丁目14-4